

飯田高校に自作の弦楽器を寄贈

宮嶋耕治（高 19 回）
（神奈川県大和市在住）

私は 60 歳で会社を退職した後、バイオリン作りに励んで来ました。

『稲穂』第 11 号（2014 年）で、なぜバイオリン作りを決断したか、ご指導をいただいた先生、バイオリン作りの奥深さ、今後の目標等について「六十の手習いでバイオリン製作に励む」のタイトルで寄稿させていただきました。

その後も製作活動を続け現在に至っております。15 年間励んできたことになりま。コロナ禍では外出自粛が求められましたが、幸い、私はこれを苦痛に感じることなく、自宅の工房に立て籠もり、製作活動に励んできました。

今までにバイオリン 20 丁、ビオラ 3 丁、チェロ 1 丁を製作しました。バイオリン作りの工程は高度な技術が要求されますが、最近は難しい工程も難なくこなせ、完成度が比較的高く、美しい作品ができるようになりました。材料は名器と同じ、表板はイタリア北部のスプルス、裏板、横板、ネックはバルカン半島の楓を使い、ニスも伝統的なニスを自作して名器のレプリカを作っているのです、それなりに音が出ます。

その楽器を知人、友人に評価していただく目的で、今年 3 月「自作の弦楽器で奏でる弦楽四重奏コンサート」を開催しました。お陰様で 100 人を超す皆さんに高評価をいただき、楽しんでいただきました。

製作した楽器は、私の人生を振り返り、お世話になった方、私の人生、生き方に大きく影響を与えてくれた方にプレゼントしております。海外生活（イギリス、オーストラリア、NZ、フィリピン）が長かったので海外の方にもプレゼントしました。大変喜んでいただき、家の宝として長く愛用していきまうと言っていたいております。

主だった方々へのプレゼントもひと段落つきました。そこで、コンサートができる必要台数を残し、余分な楽器を飯田高校弦楽部に贈呈することにしました。

9 月 30 日に飯田高校を訪問し、バイオリン 3 丁、ビオラ 1 丁、消音バイオリン 1 丁を寄贈しました。部員の皆さんが私製作の楽器を手に取り、試し弾きをし、いい音が出る、ニスの色がきれいと言ってくれました。至極の喜びを感じました。その楽器を使って数曲演奏をしてくれましたが、皆さんのレベルの高さにも驚きました。十分に人前で演奏できるレベルです。

楽器のメンテナンスも引き受けるつもりでしたが、地元にはメンテナンス工房があるとのことでしたので、私の出番は限られていると思います。



私は今年 75 歳になり後期高齢者となりましたが、今後も製作活動が続けていく所存です。家族（孫と親戚）向けにも作らなければならないと思っていますが、余った楽器は、飯田高校の弦楽部が楽器を持っていない人にも活動を広げ、ご愛用いただき、また、私の楽器が演奏の重要なパートを演じてくれるようでしたら、今後も、寄贈させていただく所存です。